

利用実態及びニーズ等について

○調査目的

高山本線の利用実態及びニーズ等を把握するために、OD・乗降調査の実施及びこれまでに実施した各種調査結果の整理・分析を実施。
また、高山本線沿線の人口動態について、住民基本台帳情報を付与したGISデータ等を基に、沿線人口の経年変化や将来見通し等を整理。

※各分析の詳細は【参考資料1-1・1-2・2-1・2-2・3】を参照

1. 利用実態調査の概要

1) 調査の主旨

高山本線の利用実態を把握するため、OD・乗降調査を実施・分析し、高山本線ブラッシュアップ施策（更なる利便性向上策やネットワーク機能の強化方策）の検討の基礎として活用するもの。また、必要に応じ、過年度の調査結果との比較を行う。

2) 調査方法

①乗降調査

各駅で便別の乗降客数をカウンターにより計測

②OD調査（付帯アンケート含む）

OD調査票を利用者に乗降駅で配布し、降車駅で回収
OD票に付帯するアンケートでは、「外出の目的」「性別」「年代」「職業」「定期・定期外」「乗継交通」の項目について調査（右図参照）

3) 調査日時

- ◆平日：R3(2021)年11月25日（木） 始発～終電まで
- ◆休日：R3(2021)年11月28日（日） 始発～終電まで

4) 調査対象

- ◆富山駅～猪谷駅の全10駅
- ◆始発～終電までの全列車（※OD調査は普通列車のみ）

5) OD調査票回収率

乗車人数…5,170人、回収枚数…2,585枚
→ 回収率…50.0%

高山本線利用アンケートのお願い

5 毎度で乗車いただきましてありがとうございます。

6 本日は高山本線の利用実態調査を行っております。

7

8

ご協力のお願い

○ウラ面のアンケートにお答えいただき、降りるときに、各駅の回収箱にお入れいただき、調査員へお渡しください。

○終日調査をしています。

○2度お答えいただく場合もあるかと思いますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

富山市・富山県・JR西日本

〔調査員記入欄〕

降車駅

降車時刻

(乗) 富山

あてはまるところを手で折り曲げて、降りるときに回収箱に入れてください
乗車(しようしや)・外出(ゆいしゅつ)の主な目的(おももくてき)は

1 通勤	業務	5
2 通学	通院	6
3 買物	競児	7
4 私用	その他	8

切符(きっぷ)の種類(しゅるい)は

1 定期券	定期外	2
-------	-----	---

あなたの性別(せいべつ)は

1 男	どちらでもない	3
2 女		

あなたの年齢(ねんれい)は

1 0才～14才	65才～74才	3
2 15才～64才	75才以上	4

あなたの職業(しよきぎよう)は

1 児童・生徒・学生	職業従事者	3
2 主婦・主夫	無職・その他	4

乗車直前(じようしやくくごん)の交通(かうたう) 降車直後(かうしやくご)の交通(かうたう)

1 新幹線	1
2 あいの風とやま鉄道(高岡・金沢方面)	2
3 あいの風とやま鉄道(魚津・泊方面)	3
4 市内電車(路面電車)	4
5 地鉄本線・立山線・上滝線	5
6 JR高山本線(高山(岐阜県)方面)	6
7 自動車(自分で運転)	7
8 自動車(送り迎え)	8
9 路線バス	9
10 コミュニティバス	10
11 自転車	11
12 徒歩	12
13 その他(タクシー・バイク等)	13

表側

裏側

図 OD調査票

2. 利用実態調査およびニーズの把握・整理

1) 調査の主旨

高山本線の利用実態および利用者や地域のニーズを把握するために、これまでに実施した各種調査結果の整理・分析を行うもの。

2) 調査の概要

①高山本線沿線住民アンケート

実施主体：富山市・JR西日本

実施年度：令和元年度（R2.1～2実施）

対象地域：西富山～猪谷各駅の沿線地域（1km或は2km圏）の町内（無作為抽出）

対象者：15歳以上の市民

配布枚数…3,750部、回収枚数…1,460部

→回収率…38.9%

主な調査項目

① 通勤・通学目的および通勤・通学以外の目的での外出

（外出頻度、外出目的、外出先・移動手段）

② 高山本線および高山本線以外の満足度と重要度

③ 高山本線および路線バス等の利用頻度について

JR高山本線の利用状況等に関する住民アンケート調査

2020（令和2）年1月 富山市・JR西日本

【調査の趣旨とご協力をお願い】

富山市では鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に都市の諸機能を集積させる「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を推進しております。

JR高山本線は富山市の重要な公共交通軸であり、これまで、JR高山本線の活性化社会実験と沿線のまちづくりを進め（H18～H22）、実験終了後は、引続き、富山市とJR西日本が連携し、活性化事業として列車の増便やパーク&ライド駐車場の継続設置等に取り組んでいるところであります。

この度、JR高山本線の維持・活性化に向けた今後の取組みの参考とするため、沿線にお住まいの皆様を対象に、JR高山本線の利用実態や利用者ニーズ等についてのアンケート調査を富山市とJR西日本が共同で実施させていただきたく思います。

お忙しいところを誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

< ご回答にあたって >

- ・ご回答は、あてはまる番号に○をつけるか、() や の中に具体的にお書きください。
- ・ご回答いただいた内容は統計的に処理し、本調査の目的以外に使用いたしません。
- ・ご回答いただいたアンケート用紙は、同封いたしました返信用封筒に封入の上、**2月7日（金）迄**に郵便ポストに投函していただきますようお願いいたします。（切手は不要です）

なお、ご回答者の中から抽選で100名様にJCBギフトカード（商品券1000円分）をプレゼントさせていただきますので、ご希望の方は次ページの内容をご確認の上、必要事項をご記入ください。

■調査実施主体（お問合せ先）

富山市活力都市創造部交通政策課 担当：久保、古村（TEL 076-443-2192）
西日本旅客鉄道株式会社金沢支社企画課 担当：長谷川、福地（TEL 076-254-3009）

【賢いクルマの使い方】公共交通とクルマの利用はバランスが大切です

クルマは便利ですが、乗りすぎると、交通渋滞の発生やCO₂排出量の増大による環境への影響などが懸念されます。一方、公共交通を利用することで、道路交通や環境負荷の軽減が図られるとともに、一人ひとりの歩く機会が増え、健康増進や人との出会い・交流が増えることが期待されます。

一人ひとりがクルマの利用を見直し、クルマと公共交通の上手な使い分けを心がけてみませんか。

公共交通 こんな時に利用してみませんか

- ・少し運動不足だなと感じているとき…ダイエットに効果的です
- ・飲み会などの予定があるとき…タクシー・代行業料などが節約できます
- ・雪道や凍結した道など、道路状況が悪いとき…事故を防ぎ、渋滞のイライラも解消できます
- ・子どもや高齢者だけで移動するとき…年齢を問わず誰でも使えます



3. 沿線人口動態調査の概要

1) 調査の主旨

高山本線沿線の人口動態について、住民基本台帳情報を付与したGISデータ等を元に、沿線人口の経年変化や将来見通し、人口密度、属性別（性別、年齢別等）などを整理。

2) 人口集計の調査方法

高山本線沿線の状況分析は、住民基本台帳情報をベースとした人口プロットGISデータを活用し、以下に示す条件で人口の集計を行った。（※右図参照）

◆調査対象年次

H17(2005年)、H18、H23、H28、R3(2021年)

◆JR高山本線の利用圏域単位

500m、750m、1km、1.5km、2km

※各駅の圏域が重複する場合には、交点を結んだ線で圏域を分割。

3) 人口推計方法

全市の将来人口推計をメッシュ単位で行い、高山本線沿線圏域に該当するメッシュについて集計することで、沿線人口の見通しとする。

◆推計方法：コーホート要因法

◆推計単位：250mメッシュ単位

◆基準年：R3(2021年)

◆推計期間：R4(2022)～R32(2050年)

※各メッシュの推計値が全市の将来見通し（富山市将来人口推計）と合致するよう調整

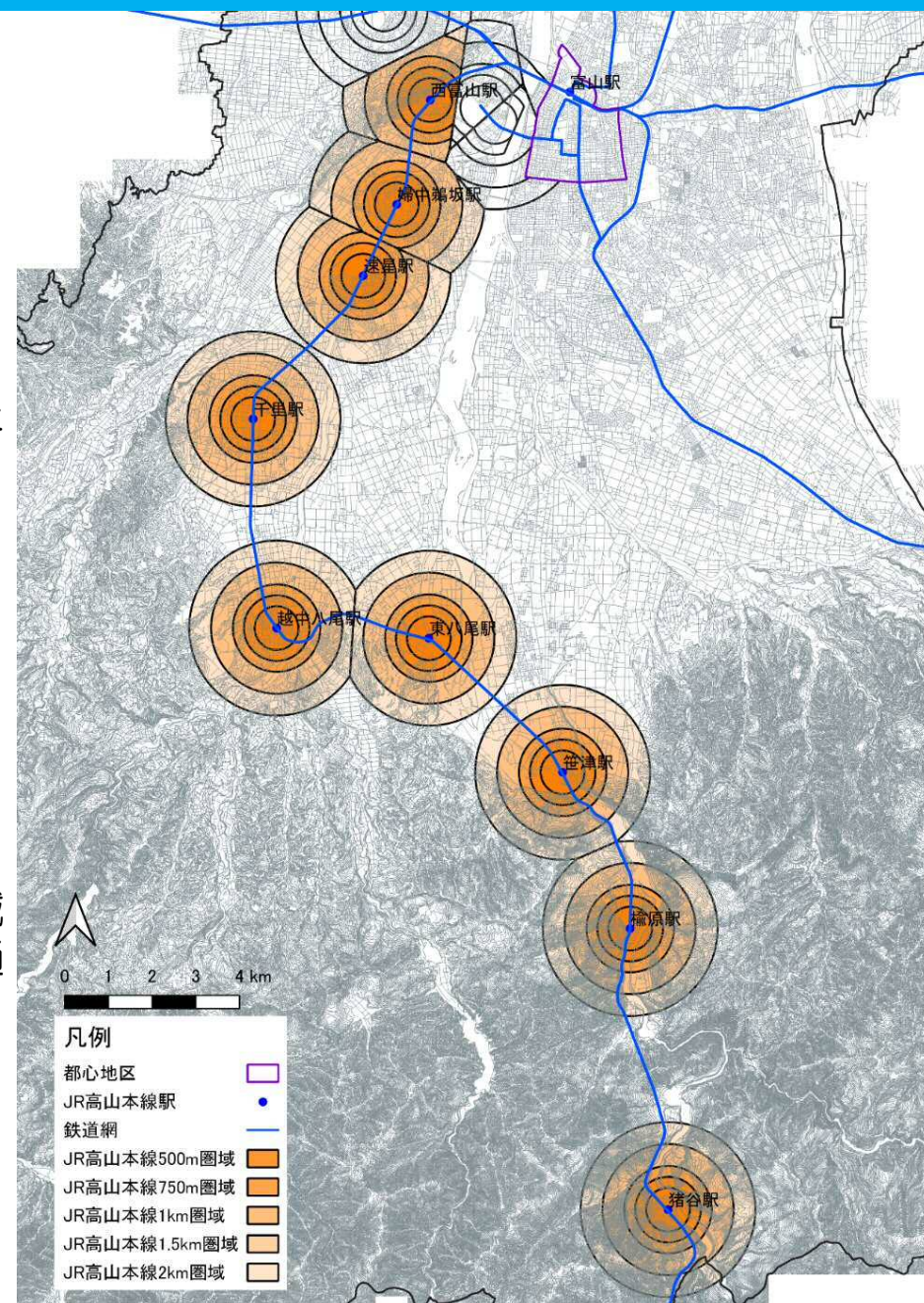


図 高山本線沿線の距離帯別圏域の状況

4. 調査結果①(※各分析の詳細は【参考資料1-1・1-2・2-1・2-2・3】を参照)

○利用実態調査結果

- 平日は活性化事業中と同程度（対H23～26）※の利用者数であり、休日は大幅減
※活性化事業期間のうち、H27～R2については、乗降調査を実施していないため比較対象に含まない
- 平日、休日ともに富山駅を中心としたOD（高齢者（65歳以上）の利用も同様）
- 平日は通勤・通学を中心とした利用状況、休日は買物等での利用が多いものの、利用者数は平日の約3割程度（平日3,922人、休日1,248人）
なお、平日においても通勤・通学時間帯以外の利用は低調
- 都心部への移動は自家用車ではなく、公共交通利用が多い
- 自家用車移動（通勤・通学以外の目的）の目的地の大半はスーパー等の商業施設

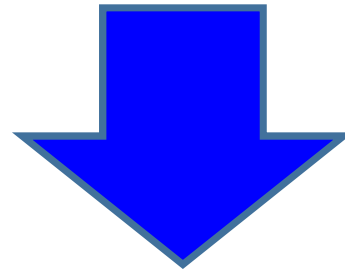
○ニーズの把握・整理（住民アンケート結果）

- 「運行本数」に関しては全時間帯において重要度が高いものの満足度が低い
- 分かりやすいダイヤ、キャッシュレス対応、高齢者向け割引運賃サービス等の導入については、利便性向上として一定のニーズあり
- ネットワーク機能強化として、富山駅における乗継改善や各駅におけるバス（路線バスやコミュニティバス）との連携充実に関する一定のニーズあり
- 将来の不安として、高山本線が確保・維持されているかという意見もあり（特に沿線の車を自由に使えない高齢者からの意見多数）

4. 調査結果②(※各分析の詳細は【参考資料1-1・1-2・2-1・2-2・3】を参照)

○沿線人口動態

- ・ 現在までの高山本線各駅の周辺人口推移（H17→R3）は、婦中地域（婦中鵜坂・速星）において増加傾向
- ・ 一方で、高山本線各駅の周辺人口の将来予測（R3→R32）は全駅において減少傾向



調査結果（高山本線の利用実態・多様なニーズ・沿線の人口動態など）を踏まえた、利便性向上・ネットワーク機能強化によるコンパクトなまちづくりの深化が必要

⇒ *持続可能な地域公共交通ネットワークの実現*